



※ 2017年10月（第13版）

※ 2016年8月（第12版 新記載要領に基づく改訂）



承認番号 20900BZY00213000

- 際は、取り扱いに注意してください。
- ◆ バクテリアフィルタはオートクレーブのみ可能です。洗浄・リンス・パスツール殺菌・EOG滅菌・消毒薬に浸すことはできません。詰まったり、流量抵抗が増大します。
 - ◆ フローセンサに洗浄器具（ブラシなど）を入れないでください〔フローセンサを損傷し、換気測定ができなくなります〕。
 - ◆ 接続部のいたみ、リークの発生を防止するため、アダプタやコネクタをつないだまま、ガス滅菌やオートクレーブしないでください。
 - ◆ 本体を滅菌しないでください。内部パーツは滅菌に耐えられません。また、本体に洗剤や消毒・殺菌薬を吹きかけないでください。
 - ◆ フェノール、ジメチルアンモニウムクロライド、塩素を含む消毒・殺菌薬、2%を超えるグルタルアルデヒド溶液を、本体のクリーニングに使用しないでください〔プラスチック部分を傷めることがあります〕。
 - ◆ 表面を痛めるのでトリクロエチレン等は使用しないでください。
 - ◆ 本体、アクセサリの洗浄や乾燥時に高圧ガスを使用しないでください〔破損の原因となります〕。
 - ◆ 本体清拭時に内部へ液体が入らないように注意してください。
 - ◆ 本器の清拭方法については取扱説明書に従ってください。
- ※ ◆（この項目削除）

※【保管方法及び有効期間等】

※ 1. 保管方法

保管温度：－40～＋70℃

保管相対湿度：0～99%（非結露）

2. 耐用期間〔自己認証（製造業者データ）による〕

指定された保守点検及び消耗品の交換が実施された場合：本体8年
ただし、清掃、交換を含めて取扱説明書通りに使用された場合。

【保守・点検に係る事項】

本器はユーザーによる日常の機能点検に加え、メーカーの定める作動時間による定期保守点検が必要です。詳細については、取扱説明書及びメンテナンスマニュアルをご参照ください。

1. 使用者による保守点検事項

日常

＜洗浄／清掃／滅菌＞

- ① 電源プラグを電源コンセントから抜いてから、適切な殺菌薬を湿らせた柔らかい布を使って、本体外面を清拭してください。
- ② 病院の基準に従って呼吸回路、呼気弁、ウォータートラップを洗浄・滅菌してください（詳しくは取扱説明書を参照してください）。
- ③ フローセンサを洗浄・滅菌してください。その際に超音波洗浄器は使用しないでください。洗浄には酵素系の薬剤を使用してください。
- ④ エアーインレットウォータートラップは、温水でのクリーニングが可能です。組立て時にボールを絞めすぎないように注意してください。

＜機能点検＞

作動させる際は常に、人工呼吸器チェックリストに従って、点検を行い、仕様通りに正常に作動することを確認してください。

＜内蔵バッテリーの充電・交換＞

バッテリーは使用していない場合でも、自然放電により電圧が低下します。使用後や保管時は常にAC100V電源に電源プラグをつなぎ、内蔵バッテリーを充電してください（約4時間でフル充電されます）。バッテリーの交換時は、取扱説明書を参照してください。交換したバッテリーは、国内法規に則り、廃棄してください。

2. 業者による保守点検事項

＜6ヶ月点検、1年点検、2年点検＞

IMI㈱が認定するサービスマンが定期保守点検を実施してください。

【主要文献及び文献請求先】

- ※ アイ・エム・アイ株式会社 レスピラトリ・ケア部
TEL：048-968-4442

※【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者の名称：アイ・エム・アイ株式会社

- ※ 製造業者名(国名)：Vyaire Medical, Inc.（バイエア メディカル社）
（米国）

類別 機械器具 06 呼吸補助器

高度管理医療機器 一般的名称 新生児・小児用人工呼吸器 JMDNコード 14361000

特定保守管理医療機器 販売名 ベアーカブ750psv小児用人工呼吸器

【警告】

＜併用医療機器＞

- ◆ 加温加湿器では以下の点に充分注意してください。①加温加湿器用チャンバのひび割れによるリークがないように、チャンバと回路接続部を常に点検してください。万が一、使用中一時的に呼吸回路をはずす場合、斜めに抜いたりすることのないように注意してください。また、呼吸回路とチャンバを接続する際、コネクタを呼吸回路接続口に斜めに押し込んだり、チャンバに無理な力をかけないでください〔接続口が割れることがあります〕。②チャンバには必ず滅菌蒸留水を入れてください〔滅菌蒸留水以外の液体は患者さんに傷害を与える可能性があります〕。③チャンバにはMAXIMUM WATER LEVELを超えて滅菌蒸留水を入れないでください〔呼吸回路内に水が吹き出し、患者さんの気道まで水が入る可能性があります〕。④チャンバはディスプレイです。1回限りの使用とし、滅菌・洗浄・再使用しないでください。⑤使用時は、必ず吸入温度をモニタしてください〔吸入温度が高くなり過ぎ、気道熱傷を起こすことがあります〕。
- ◆ Yピースで測定した吸入温度をヒータの制御に使っている加温加湿器（例：F&P社製MR730型）の場合、ネプライザにより吸入温度プローブが冷やされヒータが過剰に働くため、吸気側呼吸回路に水が溜まりやすくなります。ネプライザ使用中は加温加湿器のスタンバイ（Standby）キーを押して使用するか、加温加湿器の電源をOFFにしてください。
- ◆ ネプライザボトルから呼吸用ガスの漏れが発生しないよう、ボトルとキャップの接続状態の確認を行ってください。またひび割れ等破損がないことを確認してください。
- ◆ 吸入気酸素濃度を市販の警報機能付酸素濃度モニタにより、常時モニタしてください。また、市販の血液ガス分析装置により、換気効果を判定してください。
- ◆ 必ず医師が指示した吸入気酸素濃度が、患者さんに送られていることを確認してください。吸入気酸素濃度が医師の指示した設定値より高すぎる場合、もしくは低すぎる場合には、酸素中毒や低酸素血症など、患者さんに重篤な傷害を与える可能性があります。必ず、吸入気酸素濃度を市販の警報機能付酸素モニタによって確認してください。
- ◆ 万一の作動不良に備え、パルスオキシメータやカプノメータなどの警報機能付生体情報モニタを併用してください。さらに、手動式人工呼吸器（アンブ蘇生バッグ）を患者さんの側に準備しておいてください（医薬発248号参照）。

＜使用方法＞

- ◆ PEEP/CPAP 下限アラームは、PEEP/CPAP 以下でかつ－10cmH₂O 以内に設定してください。
- ◆ 作動不良アラームが作動している場合、全ての機械換気機能が停止します。
- ◆ バッテリ電圧の低下により作動不良アラームが作動した後に、本器を作動させるときは、AC電源を回復させた後に、モードダイヤルを一旦スタンバイに戻してから作動させてください。
- ◆ 従圧式換気（PCV、PSV等）を使っている場合、呼吸回路などの閉塞や事故（自己）抜管が起きても高圧、低圧警報が正常に作動しないことがあります。必ず、カプノメータやパルスオキシメータを併用し、これら及び本器の適切なアラーム値（SpO₂ 下限、分時換気量下限等）を設定してください。
- ◆ オーバープレッシャーリリーフバルブの設定圧を吸気圧上限アラーム値よりも高く設定してください〔低く設定した場合、気道内圧が上昇しても、アラームが作動せず、肺損傷の危険性があります〕。
- ◆ 供給ガス圧異常を示すアラーム作動時は、吸入気酸素濃度が変化し、患者さんに傷害を与える恐れがあります。
- ◆ 呼吸回路を含めて患者接続部を大気開放した時に、アラームが鳴ることを確認してください。なお呼吸回路の漏れ・外れを検出できるアラーム設定値にしてください〔呼吸回路の漏れ・外れがあっても回路先端部に毛布が当たったり、人工鼻やチューブ等が付いている場合や気道の状態やアラーム設定値によってアラームが発生しないことがあります〕。
- ◆ アラームは発生原因を確認するまで止めないでください。
- ◆ アラーム音量は周囲の音より大きく、ナースステーションでも充分に聞こえるレベルに調節し、実際に聞こえることを確

認してから、患者さんに使用してください。

- ◆ アラーム機能を定期的に点検してください（例：使用前点検、使用中点検、回路交換時等）。また、吸引時など呼吸回路を一時的に取り外した際に、アラーム機能が正常に作動することやアラーム音が聞こえることを確認してください。正常に作動しない場合、使用を中止し、直ちにIMI㈱が認定するサービスマンに修理をご依頼ください。
- ◆ 使用中は、常にアラームの設定が適切であることを確認してください。
- ◆ アラーム作動時は、患者さんが危険な状態となっています。直ちに適切な処置を取ってください〔適切な処置が取られなかった場合、重篤な傷害（例：死亡）を引き起こす可能性があります〕。
- ◆ 呼吸回路内に貯留した水や呼吸回路の振動、リーク、患者さんの体動等により自発呼吸とは無関係に自動的にトリガがかかることがあります（オートトリガ）。
- ◆ 呼吸回路の中に溜まった水は、適宜排水してください。水が患者さんや本体内に入らないように注意してください。水が入った場合、異常の原因となります。また、患者さんにつけたまま、呼吸回路内の水を取り除くために、圧縮空気によるエアガンなどを使用しないでください。呼吸回路を点検する時は、手をよく洗い、呼吸回路を不潔にしないように注意してください。
- ◆ 加温加湿器に給水する際には、注水ポートを使用するか、又は持続的給水が可能なMR290加湿チャンバをお使いください〔ガスポートを使用した場合、誤接続の可能性及びガスポートを介した菌による人工呼吸回路内汚染の可能性があります〕。
- ◆ IMI㈱が指定する呼吸回路、アクセサリのみご使用ください。また呼吸回路の構成を変更しないでください〔指定外の呼吸回路、アクセサリを使用した場合や構成を変更した場合、本器は正常に作動せず、患者さんや機器に悪影響を与えることがあります〕。
- ◆ 患者さんが呼吸回路を外さないように注意してください〔回路が外された場合、患者さんが危険な状態に陥ります〕。
- ◆ 感電を防ぐため、アンチスタティック蛇管・チューブあるいは電気的伝導性のある蛇管・チューブを呼吸回路に使用しないでください。
- ◆ 呼気排出口を塞いだり、一方向弁を取付けないでください〔本器の作動に悪影響を与え、患者さんが危険な状態に陥ることがあります〕。
- ◆ 再使用型の呼吸回路を使用する場合、定期的に洗浄・消毒又は滅菌してください。また、ディスプレイ型の呼吸回路を使用する場合、定期的に交換し、再使用しないでください。
- ◆ 呼吸回路等（気管チューブ等、患者さんに装着する製品を含む）の接続に関しては必ず、閉塞もしくはリークしていないことを確認してご使用ください。
- ◆ 吸引、呼吸回路の交換、ウォータートラップの排水等の後は、呼吸回路にリークがないことを確認してください。
- ◆ ネプライザをご使用の際に、人工鼻や呼気側回路へのフィルタ装着とネプライザの併用はお止めください〔人工鼻や呼気側回路にフィルタを装着した場合、目詰まりを起こし、患者さんが健康被害を受けることがあります〕。
- ◆ 気道内圧モニタチューブには、IMI㈱が指定する疎水性バクテリアフィルタだけをご使用ください〔他のフィルタは作動不良の原因となります〕。
- ◆ 気道内圧モニタチューブから本体内に水が入らないようにバージガスが流れていますが、水を100%防ぐことはできません。水が入った恐れがある場合、使用を直ちに止め、IMI㈱が認定するサービスマンにご連絡ください。
- ◆ 気道内圧モニタチューブにはIMI㈱が指定する内径1/8インチ（約3mm）のチューブだけをご使用ください。チューブに抵抗となるアダプタなどを取付けないでください〔気道内圧モニタチューブ、フィルタに規格以上の抵抗がある場合、実際の気道内圧はモニタ値よりも低くなります〕。
- ◆ 呼気弁部分の分解、組立てについては取扱説明書を参照してください。呼気弁ベースAssyを分解しないでください。コントロールピンを外した場合、正しく組立てた後、必ず所定の点検を行ってから使用してください。
- ◆ 呼気弁ダイアフラムを毎日点検し、破損や劣化のないことを確認してください。何らかの損傷が見られる場合は直ぐに交換してく

取扱説明書を必ずご参照ください。

- ださい[そのまま使用した場合、換気が適切に行われません]。
- ◆点検時は直接本体からのガスを吸入しないでください。点検時は新しいフィルタを使い、テストする方が感染を起こさないように注意してください。
 - ◆自己診断を実施する際は、患者さんへの接続を外してから行なってください[自己診断中、本器はガスを供給しません]。
 - ◆(この項目削除)
 - ◆使用前、使用中、使用後はそれぞれ、取扱説明書の「人工呼吸器チェックリスト」に従って点検してください。点検や作動中に何らかの異常が見られる時は直ちに使用を止め、IMI(株)が認定するサービスマンにご連絡ください[患者さんに重篤な傷害を起こす可能性があります]。
 - ◆(この項目削除)
 - ◆酸素は燃焼を加速します。発火防止のためゲージやバルブやその他の機器でオイルやグリスが表面に付着しないようにしてください。
 - ◆高圧酸素ボンベで使用する場合、認可された酸素供給用減圧弁だけを使用してください。減圧弁の操作は必ずメーカーの指示に従ってください。油性物質の側で酸素に圧力を加えると、自然に発火したり、激しく発火することがあります。
 - ◆高圧ガス(酸素・圧縮空気)と本体を接続する耐圧ホースや金具は、7kg/cm²に耐える製品を使用してください。耐えられない製品では、耐圧ホースなどの破損、使用者の怪我や作動不良原因となります。
 - ◆清潔で乾燥した医療用ガスを使用してください[水分・ゴミ・塵が混じっている場合、作動不良の原因となり患者さんに傷害を与える可能性があります]。
 - ◆使用しない時は、必ず耐圧ホースをガス源から抜いてください。
 - ◆(この項目削除)
 - ◆(この項目削除)
 - ◆患者さんに使用中は、必ず医療従事者が患者さん・機器・アラームの状態を側で観察してください。
 - ◆トリガ感度は患者さんの状態に合わせて適切に設定してください[トリガ感度の設定が鋭敏過ぎる場合、自発呼吸とは無関係に自動的にトリガがかかることがあります(オートトリガ)]。
 - ◆IE比逆転換気中は、患者さんを用意深く観察・モニタをしてください[IE比逆転換気の際の短い呼吸時間は、不完全な呼吸やエアートラッピングやAUTO-PEEPを引き起こし、過度なAUTO-PEEPは、1回換気量の減少、気圧性外傷、心拍出量の減少を引き起こします]。
 - ◆PEEP/CPAPの設定レベルによっては陰圧が患者さんに加わります。圧を観察しながら、ベースフローやPEEP/CPAPを変更してください。
 - ◆機械系統又は電気系統の問題が検出された場合、直ちに使用を止めてください[問題のあるまま使用した場合、患者さんに傷害を与えることがあります]。
 - ◆機器に液体がかかったり、内部に水滴が付くような環境での使用・保管はしないでください[機器内部に水が入ったり、水滴が付いた場合、作動停止や故障の原因となります]。
 - ◆(この項目削除)
 - ◆本器は壁の電源コンセントを使用してください。テーブルタップなどのタコ足配線での使用、同一コンセントで、他の電気機器を使用することはお止めください。
 - ◆近くで雷が発生した場合、一旦電源スイッチをOFFにし、AC電源コンセントからプラグを抜き、バッテリーで動作させてください[本器の作動に影響を与えることがあります]。
 - ◆作動不良や火災を防止するため、電源コードを束ねたり、折り曲げたりして使用しないでください。
 - ◆供給電源電圧の低下や変動は、作動不良の原因となります。
 - ◆本器はユーザーや患者さんが過剰なリーク電流にさらされないよう設計されています。ただし、外部装置が接続されている場合、このことは必ずしも保証されません。本器に外部装置を接続した場合、それらの機器からの過剰なリーク電流を防ぐため、保護アースに正しく接続してください。
 - ◆本器は内部バッテリーを搭載しています。使用しない場合でも、充電のため常にAC100V電源に接続しておいてください。
 - ◆バッテリーにより本器を動作させる場合、バッテリー残量に注意しながら使用してください。また、仕様に適した電源が取れる環境となった場合、速やかに電源コードをコンセントに差し込みご使用ください[バッテリーが空になった、もしくは消耗した場合、本器は作動を停止します]。
 - ◆最大吸気圧がボリュームリミットに達した時の気道内圧よりも約30%以上高い圧に設定されている場合、実際に患者さんに送られる1回換気量はボリュームリミットを上回ることがあります。患者さんの状態に合わせて、適切な設定を行ってください。
 - ◆(この項目削除)

- ◆フローセンサなしの状態では、患者さんに使用しないでください。フローセンサがはずされたり不良の時は呼吸モニタができず、以下の危険があります。
 - ・作動中に回路からフローセンサをはずした場合、トリガ機能とボリュームリミット機能は作動しなくなります。吸気圧上限設定を変えない場合、肺への圧損傷の可能性がります。肺に圧損傷を起こさない圧に設定してください。
- ◆フローセンサのない状態では無呼吸アラームは作動しません。CPAP、PSVモードではバックアップ換気も働かず、警報はPEEP/CPAP下限だけになります。
- ◆以下の場合、電源から本器を外し、IMI(株)が認定するサービスマンに点検又は修理をご依頼ください。
 - ①電源コードが断線・破損。
 - ②本器を落下、転倒させた。
 - ③本器から煙・異臭・異音の発生。
- ◆火災などの発生を防止するため、指定されたヒューズだけを使用してください。ヒューズの交換はIMI(株)が認定するサービスマンが実施してください。
- ◆アラーム消音中には必ず医療従事者が、患者さんの状態を観察してください。

- 【禁忌・禁止】
- <併用医療機器>
- ◆コンピュータ、無線通信設備、エレベータの動力源など、電磁波を発生させる機器が周辺にない場所で使用してください。また、本器の使用中、パソコン、ゲーム機、携帯電話などの電磁波を発生させる機器を使用しないでください[電磁妨害波が存在する環境下では誤作動を起こす可能性があります]。
 - ◆MRI、除細動器、電気メスと併用しないでください。
 - ◆本器とコンプレッサを同一の電源コンセントやテーブルタップに接続しないでください[電圧の低下や変動により、作動不良の原因となります]。
 - ◆加温加湿器に給水する際は、ガスポートを使用しないでください[誤接続及び誤接続による火傷、ガスポートを介した菌による呼吸回路内汚染の可能性がります]。
- <使用方法>
- ◆正常に作動していない場合や仕様内で作動していない場合、使用しないでください。ユーザーによる修理は行わず、故障中などの適切な表示を行い、直ちにIMI(株)が認定するサービスマンに点検、修理をご依頼ください。
 - ◆可燃性ガスのある環境や高圧治療室で使用しないでください使用した場合、爆発や火災を起こす危険性があります。また、酸素を使用する場合、発火元となるものには本器を近づけないとともに、発火防止のためオイルやグリスが表面に付着しないようにしてください[酸素は燃焼を加速します]。
 - ◆(この項目削除)
 - ◆本器のコネクタと患者さんに同時に触れないでください[規格以上のリーク電流が患者さんに流れる危険性があります]。
 - ◆アラームを設定しない状態で、本器を作動させないでください。すべてのアラームを設定し、安全な作動が保証されるようにする必要があります。低圧アラームなどのすべてのアラーム値が設定され、作動することを確認してください。

- 【形状・構造及び原理等】
1. 電気的定格
- 本体：AC100V、50/60Hz、1.0A、内部電源DC12V、鉛シールド蓄電池
ベンチレータグラフィックモニタ(オプション):DC22V、15W

2. 供給圧定格
- 酸素・圧縮空気：2.1～5.5気圧(30～80psi、206～551kPa)

3. 寸法及び重量
- 本体:343(幅)×254(奥)×279(高)mm、13.6kg
ポールスタンド:610(幅)×1029(高)mm、4.08kg
ベンチレータグラフィックモニタ(オプション):330(幅)×64(奥)×241(高)mm、2.49kg

- *【使用目的又は効果】
本品は、呼吸不全状態を呈する患者さんに、調節呼吸、補助呼吸もしくは補助・調節呼吸を行うための小児用及び新生児用人工呼吸器です。
- *【使用方法等】
詳細については、取扱説明書及び簡易取扱説明書を参照してください。

1. 電源を入れる
- ①仕様を満たす電源・圧縮空気・酸素ガス源に接続してください。
 - ②本体ガス取り入れ口に付いているウォータートラップ(圧縮空気)に、水分や塵がついていないことを確認してください。

2. 患者さんに接続する前に
- ①清潔な呼吸回路・フローセンサを本体に接続してください。
 - ②呼吸回路にテストバックを接続してください。
 - ③内蔵バッテリーが正しく作動することを確認してください。
 - ④使用前の点検(取扱説明書の「使用前の点検」を参照)を実施し、本体が正常に作動し、呼吸回路にリークや破損などの無いことを確認してください。
 - ⑤オーバープレッシャーリリーフバルブ(裏面)を適切な値に設定してください。
 - ⑥加温加湿器のチャンバに滅菌蒸留水をMaxレベルまで注入してください。
 - ⑦モードを選択し、値を調節し、換気条件を設定してください。
 - ⑧選択したモードで使用可能なパラメータは、明るく表示されます。使用できないものは、暗くなります。

3. 換気条件の設定
- ①モードダイヤルを希望の換気モードに設定してください。
 - ②モード、換気条件に合わせ、以下の中から必要な項目を設定してください。

・吸気時間	・PEEP/CPAP
・換気回数	・トリガ感度
・ベースフロー	・酸素濃度
・吸気流量	・ボリュームリミット
・最大吸気圧(PSV)	
 - ③アラームを設定してください。

・吸気圧上限アラーム	・分時換気量下限アラーム
・呼吸数上限アラーム	・PEEP/CPAP下限アラーム
・無呼吸アラーム(待機時間)	
 - ④吸入温度(加温加湿器)を設定してください。

4. 使用中の点検
- ①加温加湿器のチャンバの水がなくなる前に、滅菌蒸留水を補充してください。
 - ②加湿を最適に保つために、RHコントローラ(MR730)で蛇管の表面にうっすらと湿気がつく程度に調節してください。
 - ③蛇管に水が溜まるときは、定期的に排水してください。
 - ④加温加湿器のチャンバ出入口にひび割れのないことを点検してください。
 - ⑤フローセンサに水が貯留した場合、フローセンサをはずして、水抜きをしてください。
 - ⑥添付されている人工呼吸器チェックリスト「2.使用中の点検手順」に従って、点検してください。

5. 電源を切る
- ①患者さんから呼吸回路をはずしてください。
 - ②モードダイヤルをスタンバイにしてください。
 - ③耐圧ホースをガス源(酸素・圧縮空気)から抜いてください。

6. 使用後の点検
- 人工呼吸器チェックリストに従って、点検を実施してください。

7. 使用後のあとかたづけ
- ①呼吸回路をはずして、洗浄・滅菌をしてください。パーツの欠品、傷みを点検し、必要に応じて補充してください。
 - ②加温加湿器のチャンバはディスポーザブルですので、廃棄してください。再使用した場合、加湿能力が低下し、交差感染の危険性があります。

- 【使用上の注意】
- <重要な基本的注意>
- ◆気道内圧チューブに水滴が流入しないよう、チューブの差込口が常に上になるように設置してください。
 - ◆気道内圧チューブに水滴が見られた場合には速やかに取り除いてください[水滴で、チューブ内が閉塞し、アラームが誤作動したり、適正な換気が維持されない等の恐れがあります]。
 - ◆フローセンサが呼吸回路に取付けられている場合、ネプライザを使用しないでください。
 - ◆呼吸回路を本器に取付ける際は、取扱説明書の図を参照し、正し

- く取付けてください[取扱説明書に記載されている以外の方法を取った場合や、指定以外の呼吸回路やアクセサリを使用した場合、本器を損傷し、不安定な動作や作動不良の原因となります]。
 - ◆本体が正しく作動するためには、呼吸回路内にパーツを追加した場合、次の範囲内にあるように注意してください。コンプライアンス＝0.5mL/cmH₂O(トータル)、抵抗＝1cmH₂O/5LPM(吸気／呼吸側)
 - ◆CSS(閉鎖型気管内吸引カテーテル)のご使用にあたっては、過剰な陰圧から患者さん及び本器を守るため、以下の事項にご注意ください。①CSSの添付文書、取扱説明書に従いご使用ください。②トリガ感度をOFFにしないでください。③気道内圧モニタを見ながら、陰圧にならないよう吸引してください。
 - ◆外部ガスを駆動源とするネプライザを使用した場合、本器の作動に影響を与える可能性があります。このようなネプライザを使用する場合は、設定条件やモニタ値などに注意してご使用ください。
 - ◆ネプライザを患者さんに投与するため、本器の設定を変更した場合、ネプライザ治療が終了した後、患者さんへの適切な換気を確保するため元の設定に必ず戻す、又は設定条件をご確認ください。
 - ◆補助ガス出力口の形状は、酸素用DISSコネクタタイプとなっています。この出力口に誤って酸素ガス源を取付けない様に注意してください[本体の作動不良の原因となります]。
 - ◆換気口を塞ぐことのないようにご注意ください[内部換気が不足しオーバーヒート(過熱)します]。
 - ◆電源電圧が仕様に適合していることをご確認ください。
 - ◆AC電源のアース配線が確保されていることをご確認ください。確保されていない場合、本器を外部バッテリーで動作させてください。
 - * ◆(この項目削除)
 - * ◆(この項目削除)
 - ◆ご使用に際しては、本体貼付のシール(「使用上の注意事項」等)を確認してください。
 - ◆温度プローブは必ず吸気側(インキュベータ外)に取付けてください。
 - ◆保管中に充電を忘れた場合、バッテリー寿命が短くなります。また、完全に放電したバッテリーは、本体にダメージを与えます。交換が必要な場合、IMI(株)が認定するサービスマンに連絡してください。
 - ◆患者さんに使用する前、使用中も定期的に入力ガスウォータートラップ、フィルタを点検してください。ウォータートラップ内に塵埃や湿気、水滴が見られた場合、本体内に塵埃や湿気、水滴が入り、正常な作動・換気が行われていないことが考えられます。直ちに本器の使用を止め、IMI(株)が認定するサービスマンに連絡してください。
 - ◆機器は次回の使用に支障のないように、使用後の点検(人工呼吸器チェックリスト「3.使用後の点検手順」)を行い、必ず綺麗にしておいてください。
 - ◆問題が取扱説明書のトラブルシュートによっても解決できない場合、使用を直ちに止めIMI(株)が認定するサービスマンに連絡してください。
 - * ◆(この項目削除)
- <その他の注意>
- ◆ケーブル類や呼吸回路、アクセサリ類に過度なテンションをかけないでください。
 - ◆機器を設置・保管する時には、次の事項に注意してください。
 - ①水のかからない場所に設置・保管。また、本体の上に水を入れたものを置かないでください。
 - ②気圧、温度、湿度、日光、ほこり、塩分・イオウ分などを含んだ空気などにより、悪影響の生ずる恐れのない場所に設置・保管。
 - ③傾斜、振動、衝撃(運搬時を含む)などがない安定した状態となっていること。
 - ④化学薬品の保管場所や可燃性麻醉ガスの発生する場所に設置、保管しない。
 - ⑤長時間、高温となる場所に設置・保管しない。
 - ⑥アース線が正しく接続できる壁面接地端子を備えている場所に設置・保管。
 - ⑦電源の周波数・電圧及び許容電流の値(又は消費電力)が仕様を満たしている場所に設置・保管。
 - ⑧換気の良い場所、臭い、大気汚染のない場所に設置・保管。また壁やカーテンから10cm以上離す。
 - * ◆(この項目削除)
 - ◆電源コードに損傷がなく、接続が正確・安全であることを確認してください。また損傷を防ぐため、電源コードの上に物を置いたり、人が歩く場所に電源コードを置かないでください。
 - ◆各アクセサリ類の滅菌の際は、滅菌の最大温度を守ってください。
 - ◆呼吸弁等のアクセサリは精密部品です。取付け、取り外し、洗浄の